カルメル

霊性センターニュース

2022年9月　　３８９号

９月号　【教会からの巻頭のことば】

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12 章 21 節)

教皇フランシスコ　使徒的勧告『喜びに喜べ』

第二章　「聖性の狡猾な二つの敵」

ここでは、わたしたちの道を誤らせうる、聖性の二つの贋作に注意を促したいと思います。それはグノーシス主義とペラギウス主義です。これらはキリスト教誕生後の最初の数世紀に登場した二つの異端で、現在も依然として警戒すべきものです。現代においてもなお、多くのキリスト者の心は、おそらく無自覚に、こうした欺きの理念に惑わされています。そこにはカトリックの真理を装った、人間中心的な内在主義が表されています。この二つの形態がもつ教理的・規律的確信を見てみましょう。それは「自己陶酔的なエリート主義を生じさせます。それによって、福音をのべ伝える代わりに他者を分析し格付けし、恵へと導くことにではなく、人を管理することに力を費やします。どちらの場合も、イエス・キリストに対しても他者に対しても、真の関心を払ってはいません。」(35)

グノーシス主義は次のようなものと推定されます。「主観主義にとらわれた信仰」で、「特定の経験、一連の論証、知解のみに関心を持っています。それは慰めと光を与えると考えられるものですが、主体は自らの理性と感情の内在に閉ざされたままなのです。」(36)

グノーシス主義が知解に帰したその力を、人間の意志に、個人の努力に帰するようになる人々が出て きます。こうして、ペラギウス主義にかぶれた一派が登場しました。神秘と恵みの場を支配するのは 今や知ではなく、意志となったのです。すべては「人の意志や努力ではなく、神のあわれみによるも の」(ローマ 9･16)であり、「神が先ずわたしたちを愛してくださった」(１ヨハネ 4･19) ことを忘れたのです。(48)

目次

教会からの巻頭の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・1

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

通信深読お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・２４

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・２５

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・３８

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９

心の泉

宇治カルメル会修道院 黙想の家

第三巻

第四十九章　永遠の生命へのあこがれと、そのために戦う人に約束された大いなる報い

６　悲しみの実

しかし子よ、このような犠牲の功徳を考えなさい。それはすぐに過ぎ去り、その後には報いがあると考えなさい。そうすれば、あなたはそれを重荷と思わず、忍従（にんじゅう）するにあたって強い励ましを感じるであろう。今あなたが小さな望みを進んで捨てる代わりに、天であなたの望みがすべて通るであろう。

実にそこでは、あなたの望みどおりのもの、願うままのものが見つかるであろう。そこでは、失う恐れがなく、あらゆる善を十分にもつことができる。そこでは、あなたの意志が私と一致し、それ以外のことや自分だけのものは、何一つ望もうとしない。そこでは、あなたに逆らう者もなく、不平を言う者もなく、邪魔する者もなく、反対する者もいないであろう。それどころか、あなたは望みのものをすべて目の前に置かれ、あなたの心は完全に満たされ、あふれるほどになるであろう。そこで私は、あなたが忍んだ侮辱の代わりに光栄を与えよう。悲しみの代わりに称賛をまとわせ、この世で最後の席をとった者に、み国において最上の席を与えよう。どこでは従順の実がなり、苦行の苦しみが喜びになり、謙遜な服従が光栄の冠(イザヤ６１・３参照)となるであろう。

７　皆のしもべ

今は、誰のもとでもへりくだり、言った人、命じた人が誰であろうと気にするな。あなたが特に気をつけなければならないことは、目上、同輩、目下の区別なく、あなたに何かを望み、何かを勧める時に、それをすべて善意にとって、真実の心で果たすように努力することだけである。他人が、あのこと、このことを求め、ある者はこれを誇り、他の者はあのことを誇って、大いに称賛されることがあっても、あなたは何事も誇らず、自分自身を軽んじ、み旨を果たし、私の光栄のために努めることを喜びとし、誇りとしなさい。あなたが望むべきことは、「生きるにしろ死ぬにしろ」(フィリピ１・20)、あなたのなかにいる、神がたたえられること、これだけである。》

日々　聖霊に導かれて　　2022-9

このページを繰る頃はまだ残暑の厳しい日々が続いていると思います。現在の世界情勢は一体どうなっているのか･･･。そして、これからどうなるのでしょう…。1ヶ月、2ヶ月先はまったく予測のできない日々を私たちは生きています。
でもキリストの救いは常に完了形です。その教会の典礼暦では、9月の８日聖マリアの誕生、１４日十字架の称賛、１５日悲しみの聖母を記念し、２９日は大天使聖ミカエル、聖ガブリエル、聖ラファエルを祝います。

悲しみの聖母

9月30日、24歳で死去したリジューの聖テレーズはキリストの救いの業に日々私たちが参与するように招いています。

イエスさまは
　本当に悟りつくせないほどの愛で
　　わたしたちを愛しておられます。
わたしたちにも
　ご自分といっしょに人々を救うため
　　一役買わせようとお望みです！
主は　わたしたちの協力なしに
　何一つなさりたくないのです。

～　幼きイエスの聖テレーズ　～

この写真の黒ベールの修道女がすでに病魔に侵され、やせ細ったテレーズです。洗濯の汚い水が飛び散ってもそれをよけるよりは、小さな一つの「私たちの協力」としてささげるテレーズ・・・『自叙伝』原稿C

「たとえ黒い雲が愛の太陽を隠すようなことがあっても」、イエスへの信仰のまなざしをもって、わたしたちの平凡な生活において「過ぎ去ることのない、変わることのない神の愛」を見つめ続けて日々を生きていくことができますように。

伊従 信子（いより のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（56）

九里（くのり）　彰

前回は、二種の「オソレ」について触れた。「神への畏れ」とそれ以外のものへの「恐れ」である。これは、信仰の問題としても捉えられる。というのも、信仰のない人にとっては、「神への畏れ」など初めからないからである。あるのはさまざまな「恐れ」であろう。1)地震や台風、集中豪雨や土砂災害など、自然災害への恐れ、2)癌や脳梗塞や心筋梗塞、コロナやさまざまな伝染病など、病気への恐れ、3)交通事故や列車・飛行機による事故への恐れ等々。これらはみな、最終的には「死への恐れ」に結びついている。

「動物への恐れ」もよくある。小さい時に犬にほえられたり、かみつかれたりして、犬が怖くなり、犬を見るやいなや、蛇ににらまれたカエルのようになる。しかし大人でも、熊やライオンなど大きな動物が目の前に現われたら、どうか。猫を怖がる人は少ないが、ネズミやゴキブリや毛虫などを怖がる人も多い。

「人への恐れ」も深刻である。上司のパラハラやセクハラ、同僚のいやがらせなどから、精神的にバランスを崩し、出社できなくなったり、病気になったりする。子供の場合、学校で友達にからかわれたり、陰険なイジメにあったりして、登校拒否や引きこもりとなる。またDVなど、家庭内暴力で命を落とす人は海外では少なくない。「戦争への恐れ」は、一個人というより人間集団である国家（仮想敵国）に対してだが、自国以外は、すべて仮想敵国となり得るので、とどまることを知らない。いずれにせよ、「人への恐れ」は、自分の存在が否定されることから来ており、これも究極的には「死への恐れ」に行き着くと思われる。

他にもいろいろ考えられるが、これらはみな「この世における恐れ」とひとくくりにできるのではないだろうか。（天使や悪魔の存在に多少似た幽霊や妖怪に対する恐れは、この世を超えたものに対する恐れとも言え、「恐れ」と「畏れ」の中間かもしれない。）

これに対して、「神への畏れ」は、これらの次元をはるかに超えている。それは、創造主である神の偉大さ、聖性の前に、自らの卑小さや罪深さを意識することから生じ、そこには神への感謝や賛美の心が伴われているように思われる。すばらしい人物に対しては、おのずと敬愛の念が生じてくるように、神に対しても、洗礼の秘跡を通して、信仰・希望・愛の対神徳が芽生えてくると考えられる。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（171）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

忍耐の戦い③

「困難の中にあった時、それを引き起こしている人についてうわさ話をするのを彼は許しませんでした。その困難を彼に送っているのは、神なのだからと言いながら」。

また話の流れで、ある人があえて彼にこう言いました。「ああ神父様、ディエゴ・エバンヘリスタ神父は、なんとあなた様にひどい仕打ちをされるのでしょう」。十字架のヨハネは、これをさえぎって言いました。「その人のことより、その言葉の方が、私に苦痛や不快感をもたらします」と。

さて、人のいいマルティン修士は、この種の証言にこと欠くことはなく、たとえばこう言っています。「彼はいつも、彼を迫害する人々のために祈ってほしいと願っていました。迫害がないようにというのではなく、彼らが神を侮辱しないため、また彼らが言っていることすべてを彼が自分のうちに受け入れられるようにと。こういったことを言うのを私は飽きるほど聞きました」。マルティン修道士の言葉は、ヨハネ修士の人生の最後の数か月よりもっと長い期間に及び、厳しく困難な時期における聖人の心の状態を、私たちに垣間見せてくれます。

彼の忍耐は、ウベダの有名な院長、フランシスコ・クリゾストモの前で、確固たるものとなりました。彼はまず病気の聖人を嫌な顔で不機嫌に受け入れることから始めました。無防備の聖なる十字架のヨハネ修士に対するこの人間のひどい振る舞いは、病理学的な事件です。

—修道院のもっとも見すぼらしい狭い部屋に彼を置きました。

—院長の明確な許可なしに彼を訪れることを修道士たちに禁じました。

—彼を訪れ、不愉快なことを想い起こさせ、数限りなく侮辱をあびせました。”彼に復讐するかのように“。

—共同体の行動に、彼がどんな状態であろうと、同伴するよう義務づけました。ある時、病気の痛みのためにもう同伴できないので、食堂に行くことはできないと言い訳をしました。院長は彼を呼び寄せ、すべての者の前で彼をひどく叱責しました。

（P. 九里訳）

年間 第２３主日

（ルカ１０：２５-３３）

今日の福音は、一緒について来た大勢の群衆に、イエスが語られた「弟子の条件」についての箇所です。弟子の条件としてイエスは、父、母、子供、兄弟、姉妹、自分の命、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえないと言われます。

一体、その様なことができるのでしょうか。文字通り、文字面通りに捉えるとすると非常に厳しい言葉の様に思われます。そしてイエスは、自分の十字架を背負ってついて来る者でなければと続いて群衆に語られます。ですからこの２つの条件を満たすことが、イエスの弟子の条件ということになるのでしょう。

ある聖書学者の解説によると、憎むのは背負うため、背負う十字架は家族の間に最も濃密な形で現れる人間関係にかかわる十字架のはず…とのこと。もしそうであるならば、文字通り、文字面通り、父母、子供、兄弟、姉妹、自分の命を憎まなければならないということでなく、人間関係にかかわる十字架を背負って私に従いなさいということなのでしょう。そしてそれは、自分という十字架も含めてということになりますでしょうか。　あるがままの現実を受け止め、受け入れて歩んでいくことが、イエスに従っていくこと、弟子の条件なのですね。

イエスご自身、その道を歩んでゆかれました。神の子が人となられてこの世に生まれ、ヘロデから命を狙われ、人々や親戚からの無理解、多くの人々から受け入れられずに、不当な裁判を受けて有罪の判決を受けられ、十字架に架けられて、亡くなられました。私たちの救いのため、私たちの罪の贖いのために。

イエスの弟子であるということは、師の歩まれた道を歩むこと、そのみ跡を辿ること。イエスが歩まれた様に、実際に十字架に架けられる…ということはないかも知れません。私たち一人一人違う個性があり、一人一人生きる場、一人一人生きる環境が違う様に、それぞれが持っている十字架、担うべき十字架は異なりますね。

ここで私たちの天の母であるマリア様に目を向けてみましょう。無原罪のマリア様、神の御子の母であるマリア様、決して困難や苦難がなかった訳ではありません。大きな苦しみを受けられたことを私たちは知っています。イエスが刑場に向かうのに同行し、そのご死去に立ち会い、死という現実を受け止め、ご復活の時に向かって歩まれました。

今月１４日は「十字架称賛（祝日）」、１５日は「悲しみの聖母（記念日）」ですね。イエスの十字架に目を注いで、その十字架の下に佇まれるマリア様の姿を想いながら、私たちも自分の十字架を担い、イエスの弟子として、イエスに従って歩んでゆくことができますように。

（Fr.　古川利雅）

年間 第２４主日（C）

（ルカ１５：１－３２、１５：１－１０）

ルカの福音は、「あわれみの福音」と「喜びの福音」という二つのタイトルを持っています。本日私たちは聖ルカの福音から美しい譬え話を読みます。罪人への神のあわれみと、赦す御父と罪人が完全に和解したときの神の喜びを描いています。放蕩息子の譬え話は、ルカの福音にだけあります。

この譬え話は、私たち多くの普通の人が持っている経験を語っています。弟は贅沢な生活を楽しむために、父親からの相続財産の自分の分け前をもらいたいと思います。彼は分け前をもらい、それを全部浪費してしまってから我に返り、家に戻ろうと考えます。愛する父親を思い出し、痛恨の思いをもって急いで戻っていきます。

この譬え話は、財産の分け前をもらってそれを浪費してしまった人だけではなく、私たち皆にとっての示唆をいっぱい持っています4。この譬え話をよく考えてみましょう；もし放蕩息子がお金をギャンブルで使い果たさなかったとしたら、家に戻ろうと考えなかったでしょうか？　もし父親が強い性格で、冷酷であったとしたら、この息子は家に戻ろうと考えたでしょうか？私たちはまた、息子が戻ってきたときの父親の英雄的な愛と受け入れる心のことも考えてみることができます。大喜びした父親は、祝宴を開き、いなくなった息子が戻ってきたことを祝います。そして兄のほうはどうでしょうか、彼は父親の寛大さと祝福を強く憤慨します。

放蕩息子の譬え話は、今日の私たち自身の反応を調べてみるように求めています。言葉や、行い、反応で私たちを傷つけた人を喜んで受け入れるでしょうか？
教会を離れている人や、他者に対して傷つけるようなことをした人を赦す心を持つことができるでしょうか？　この譬え話はまた、問題があったときや、困難のとき、失意のときだけでなく、日々私たちが救いについて考えるように招いています。私たちの天の御父はいつでも私たちを広い心で赦し、喜んで迎え入れてくださるとしても、御父と協力し、自分たちの救いのために働くことは、私たちの義務であります。

(Sr. Paulina)

年間 第２５主日

（ルカ１６：１−１３）

管理人は主人に借りのある者を一人一人呼んで尋ねました。「わたしの主人にいくら借りがあるのか」。「油百バトス」と言うと、管理人は言った。「これがあなたの証文だ。急いで、五十バトスと書き直しなさい。」また別の人に、「あなたは、いくら借りがあるのか」と言った。「小麦百コロス」と言うと、管理人は言った。「これがあなたの証文だ。八十コロスと書き直しなさい。」

この事実を知った主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめたというのです。自分の財産を不正に管理されているにもかかわらず、主人はこの管理人をほめたというのです。

もちろん、この社会でこのような不正は通じませんが、イエス様は、この主人を天の御父に重ね合わせて思い描いているようです。御父の寛大な心は、細かい計算をする人間の心とは違います。どこまでもゆるし、借金を帳消しにしてくれる御父は、同じように、細かいことを気にせず、人の重荷を軽くしようとする人を喜ばれるのだと思います。

教会は結婚に失敗した人に厳しい面があります。「神が結び合わせたものを人は離してはならない」とのイエスの教えは不変ですが、これを常に文字通り当てはめるだけだと、どうしても苦しむ人が出てしまいます。そういう重荷を負った人を何とか軽くしてあげることも、やはり御父に喜ばれることです。完全に負担を無くすことはできなくても、百バトスを五十バトスに、百コロスを八十コロスに軽減することはしていいのだと思います。管理を任されている主任司祭や告白を聴く聴罪司祭は、思い切って彼らの負担を軽くしてあげてほしいと思います。

御父の寛大な心、無限のいつくしみこそが、すべての正義を超えた正義です。御父の心を心としたイエスも、時には型破りな方でした。いつくしみよる型破りなら、それは決して間違いではないのだと思います。

「不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。」

この世のルールはもちろん大切ですが、永遠の住まいを目指すなら、永遠の御父の心に響く生き方も大切にしなければなりません。

（今泉健 神父）

年間 第２６主日（C）

（ルカ１６：１９－３１）

「貧しい人に対するキリストの心遣い」というルカによる福音書が掲げるテーマを心に留めると、今日の福音箇所をさらにはっきりと理解できます。一時貧しかった人があの世では金持ちとなりました。ここで、イエス・キリストと福音と教会のうちに、私たちは自分の生活と救いに必要な教えと秘跡を全部手に入れているという教訓も覚えておきましょう。個人的な啓示は一切いりません。

イエスは、「金持ちとラザロ」の話を通じて、自分の門前にいる貧しい人に見向きもせずに生きることがいかにたやすいかを示しています。私たちは知らぬふりをするのを好み、彼らを見たり、出会ったりしたくありません。私たちの大半は、ホームレスや問題を抱える人を見かけますが、何もしません。このたとえの中ではっきりと示されるのは、金持ちが貧しい人を無視した時、自分自身の魂を失ったという点です。貧しいラザロへの思いやりを示す義務を果たさなかった金持ちの運命を用いながらイエスは警告を発しています。金持ちは、金を持っていたせいで罰せられたのではなく、隣人への愛という掟を無視したので罰を受けました。ではここで、「私の隣人とは誰だろう？」と自問してみましょう。その答えは、「助けを必要としている全員」です。

福音は、私たちが自分の豊かさを他者と分かち合うようにと招いています。全能の神は、私たち一人ひとりに対し、数えきれない祝福を与えて下さいました。自分の周りの人が抱える苦しみの存在を意識し、自分たちが受けた祝福を惜しみなく分かち合わなければなりません。手が必要な兄弟姉妹に心開くことをキリストは要求しています。この世で私たちが出会うあらゆる人は、家族、友達、知り合い、恩人、見知らぬ人、敵と何であれ、神が私たちに派遣した人なのです。

福音のメッセージを思い巡らし、私の門前のラザロが誰なのかを見つけましょう。また、その人のために私は何ができるでしょうか。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」（マタイ２５：４０）という聖句を心に刻みましょう

(Sr.Paulina)

いのちの言葉　９月

わたしは、だれに対しても自由な者ですが、
すべての人の奴隷になりました。
できるだけ多くの人を得るためです。
（コリントの信徒への手紙一９・１９）

今月の「いのちの言葉」は、聖パウロのコリントの信徒への第一の手紙から引用されています。エフェソ（現在のトルコ）にいたパウロは、この手紙を通して、コリントにいるギリシャ人共同体が直面しているいくつかの問題に答えようとしています。当時、コリントは、国際的な商業都市でしたが、（愛と美の女神を祀る）アフロデイテ神殿の存在でも有名であり、くわえて、道徳的にたいへん退廃した町としても知られていました。

この手紙の受取人は、パウロの説教によって、数年前に異教からキリスト教徒に改宗した信徒たちでした。彼らの共同体を二分する問題のひとつに、偶像に供えられた肉を食べてもよいのかどうかということがありました。パウロはまず、キリストのうちに、どれほど大きな自由が与えられているかを彼らに分からせようとしています。その上で、もし誰かが、なんだかの選択を余儀なくされるようなときに、どのように振る舞うことができるかについて語り、その中で特に「自由」について取り上げています。

わたしは、だれに対しても自由な者ですが、
すべての人の奴隷になりました。
できるだけ多くの人を得るためです。

キリスト者は、「世の中に偶像の神などはなく、また唯一の神以外にいかなる神もいない」（８・４節）ということを知っています。それでおのずと、偶像に供えられた肉を食べようが食べまいが、それ自体何も問題ではないと知っています。しかし、まだこのような信仰の認識にまで至っていない仲間と共にいるときには、彼らのことを充分に配慮し行動しなければならないのです。さもなければ、彼らの弱い良心をつまずかせてしまうことにもなりかねません。

「知識」を取るのか、または、「愛」を取るのかという問題に対して、パウロの答えは明白です。キリストに従う者は、まさに、愛のために自ら仕えるものとなられたキリストに倣うために、自分の自由を捨ててでも愛を選ばなければならないとパウロは考えます。まだ知識が不十分で、そのために良心の呵責にさいなまれるような兄弟がいるなら、まずこうした人々への配慮が基本になります。それは、福音がもたらす善と健全な生き方を多くの人々に伝えていくために、すべての人を「得る」ために必要な配慮だからです。

わたしは、だれに対しても自由な者ですが、
すべての人の奴隷になりました。
できるだけ多くの人を得るためです。

キアラ・ルービックは記しています。「もし、私たちがキリストのうち

に一つであるなら、お互いの間にある不和や相反する思いはキリストを分断させることになります。･･･ 初期のキリスト者たちは、調和が失われる恐れがあるとき、お互いの間に愛が保たれるように、むしろ自分の考えを譲るようにと勧められました。･･･今日にもそれが言えるでしょう。時には、私たちは、この考えこそが最善だと思ったりします。しかし、主は、すべての人との愛の関係を保つために、時には自分の考えを譲る方がよい、不一致のなかで完全であろうとするよりも、不完全であってもお互いに一致している方がよいと分からせてくださいます。一致を壊さないために、むしろ、自分の方から折れるという選択は、きっと痛みを伴うことでしょう。しかしこれは、神から祝福された生き方であり、また、一致を保つためにキリストの思いに最も叶った方法と言えるでしょう。そして結果的に、そうすることの価値をあらためて見出すのではないでしょうか。」[1] と。

わたしは、だれに対しても自由な者ですが、
すべての人の奴隷になりました。
できるだけ多くの人を得るためです。

１３年間の獄中生活のうち９年間、独房生活を余儀なくされたベトナムのフランソワ・ヴアン・トウアン枢機卿の体験は、見返りを求めない本物の愛で人と接するとき、相手からも愛が返ってくることを証ししています。

獄中、彼は、５人の看守に見張られていましたが、指導者たちは、彼によって看守が「汚染」されるのを恐れ、２週間ごとに看守を交替させました。しかし、最終的には、彼によって看守たち全員が「汚染」されてしまうことを危惧し、常時おなじ看守を警備に当たらせることにしました。

ヴアン・トウアン枢機卿はこう語っています。「看守たちは最初、『イエスかノー』としか答えずそれ以外、私とは一切口をききませんでした。･･･ある晩、ひとつの考えが心に浮かびました。『フランシス、あなたは、まだとても豊かです。あなたの心にはイエスの愛があります。イエスがあなたを愛して下さったようにあなたも彼らを愛しなさい』と。翌日から、私は以前にもまして彼らをまごころから愛しました。彼らの中におられるイエスを愛そうと微笑み、やさしく彼らに語りかけました。･･･少しずつ、私たちは友達になりました」[2] と。その後、看守たちの協力を得て獄中で、彼は、胸に掛ける十字架を作りました。看守たちときずいた友情の印であるこの十字架を、彼は死ぬまで身に付けていました。小さな木片と鉄の鎖からなる十字架でした。

レティツィア・マグリ

1. キアラ・ルービック著「愛の芸術」チッタノーバ誌、2005年ローマ、pp120 - 121
2. フランソワ・ヴアン・トウアン枢機卿著「希望の証人」チッタノーバ誌、2000年ローマ、pp.98. 1928年、カトリックの家庭に生まれ、2002年，ローマで死去。1975年８月15日、教皇パウロ６世からサイゴン大司教区補佐司教に任命された直後、ベトナム当局に逮捕され、独房、収容所、あらゆる種類の拷問により、極めて困難な13年間を体験したが、その間、枢機卿は獄中で常に揺らぐことのない希望のうちに生きた。

＊いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先：フォコラーレ　東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com　ホームページ：https://www.focolare.org/japan/

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>>　　2022年７月２３日

フィリピン発 ：
カルメル会 フィリピン渡来75周年記念の祝祭

全世界の教会で去る6月6日に祝われた聖霊降臨の祭日と時を同じくして、フィリピンのイエスの聖テレジア管区は、カルメル会のフィリピン渡来75周年記念祭をお祝いしました。

フィリピンのカルメル会は、アメリカのカルメル会ワシントン管区の勇敢な宣教精神にあふれる6人の修道士たちの熱心な観想修道生活により1947年に開始されました。

彼等、はもっとも侘しい地とされたインファンタの高位聖職者管轄区で働きました。その後、フィリピンのバチカン大使エジディオ・バニョッツイ大司教は、跣足カルメル修道会総長 聖テレジアのシルベリオ神父にフィリピンの別の所も宣教地とするよう依頼しました。これに応えて英国系アイルランド人3名の修道士たちがフィリピンに派遣されました。これらアイルランドからのカルメル会修道士たちはフィリピンの中心地で修道会の拠点を創設し、カルメル会修道女や在世会会員たちと共に働き、黙想のための使徒職に専念しました。こうしてこれらアメリカ人とアイルランド人の宣教師たちは、共にこの地における霊的基盤を耕作していきました。

彼らの働きと献身が今回の祭典の中心となっています。バコロド市では、教会の重要なミッションに捧げる3日間の継続ミサが執り行われました。この祭典は、跣足カルメル修道会の聖人たちを讃える行列で閉会しました。マニラ市や他のところでは、ミサ後アメリカの宣教師たちを記念するビデオが制作され上映されました。ここでの祭典の中心は、ジュンジュン・アグルーダ神父OCDの主司式と他の地域から集まったカルメル会士たちの共同司式によるミサで、そのとき管区長ダニロ・リム神父OCDからの感謝メッセージが読まれました。

現在跣足カルメル修道会フィリピン管区には49名の荘厳誓願修道士、17名の神学生修道士、9名の修練生、8名の志願生たちがいます。今回の記念祝祭での感謝と熱意とともに、フィリピン管区が私たちの聖なる父母、イエスの聖テレジアと十字架の聖ヨハネにより始められ、アメリカ人とアイルランド人宣教師たちによりこの地で実現化された跣足カルメル修道会の宣教の物語を、これからも継続していくよう祈ります。

（訳：小宮山延子）

糸巻き棒からペンへ(78)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

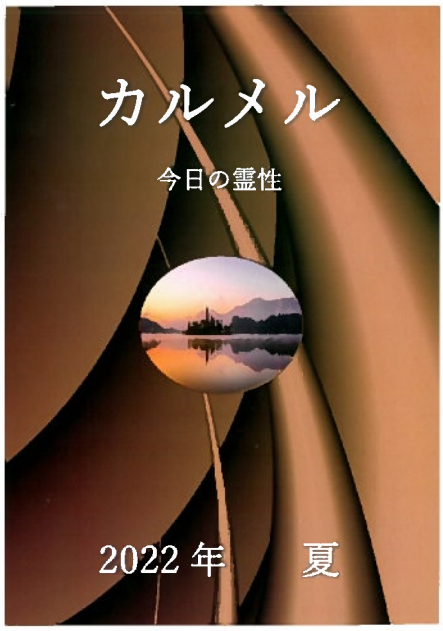
あなたに言いますが、祈り（念祷）は私にはとても必要に思われます。祈りをしない霊魂は、手足はあっても、それらを自由には使えない体の麻痺した人のようだと思います。それに私たちの霊魂は、神によって、偉大な可能性と天賦の才能をもって造られているのです。それらは、霊魂を限りない憐れみをもって造られた方との愛に満ちた出会いの中でのみ見出され、実行に移されるのです。

私は、霊魂がすべてダイヤモンドかとても透明な水晶でできているお城であると考えてみました。そこには、天国に多くの住居があるように、たくさんの部屋があるのです。そして中心には、つまり、すべての住居の真ん中に、一番主要な部屋があるのです。そこで神と霊魂との間にきわめて神秘的なことが起こるのです。霊魂の偉大な美しさや能力をたとえるこれよりよい比喩を、私は見出すことができません。私たちの内的な豊かさを想像するには、神が私たちをご自分にかたどり、ご自分に似せて造られたと言われたことを考えるだけで十分でしょう。私に分かるかぎりでは、このお城に入るための唯一の門は、祈り（念祷）なのです。

私が祈り（念祷）をするようになって以来、私の霊魂が諸徳においてとても熱心となり、恵み豊かになったのを知っています。ちょうど無数の宝石やご馳走で歓待されているかのようです。私たちの心を満たしてくださるこの偉大な主に私たちが心を開かないなどということは、とても愚かにならなければできないことだと思います。ちょうど泉のそばにいて、水を口にもっていく努力しなくてもいいのに、渇きで死んでしまうかのようです。ですから、これほど与えることが好きで、いくらでも与えることのできる方が、友達に対しては何も与えないのでしょうか。私たちのために命を与えてくださった方は、私たちが信頼をもって願うならば、その愛のうち成長するために必要とするすべてのものを否応なしに与え続けなければならないでしょう。主の名によって、私は祈らない人に、神が祈りの中で私たちに与えようとされている善益が奪われないように求めます。

（P.九里訳）

カルメル誌　新刊案内



2022年 夏号 No.385

エディット・シュタインの言葉 抄(二)　釘宮明美

道の霊性(続)第二回
　平和の道への導きを信じて　田畑邦治

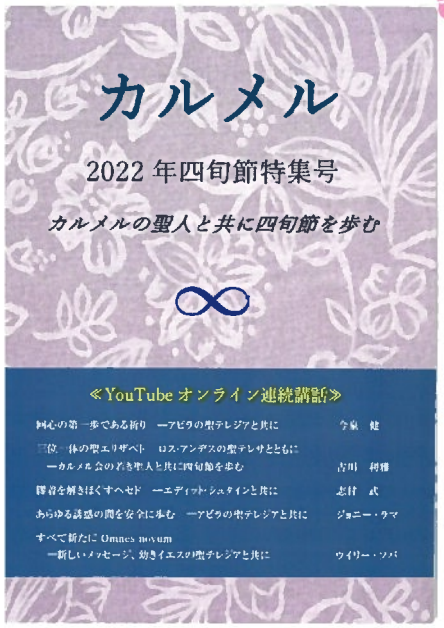
日々の出来事の中で 神の霊は導く(2)
　—カルメル会への道のり　伊従信子

風に吹かれて再び(2)
　—こんなふうに生きたい　原 造

聖ヨセフ II　ポーリン・フェルナンデス

キリストの説かれた 幸いなる道(6)　九里 彰

霊的研究会講義録(16)－聖書・祈り・愛について
　奥村一郎



2022年 特集号
カルメルの聖人と共に四旬節を歩む

回心の第一歩である祈り
　—アビラの聖テレジアとともに　今泉 健

三位一体の聖エリザベト
　ロス・アンデスの聖テレサとともに
　—カルメル会の若き聖人と共に四旬節を歩む
　古川利雅

膠着をときほぐすヘセド
　—エディット・シュタインと共に　志村 武

あらゆる誘惑の間を安全に歩む
　—アビラの聖テレジアと共に　ジョニー・ラマ

すべて新たに Omnes novum
—新しいメッセージ、幼きイエスの聖テレジアと共に
　ウィリー・ソバ

ご案内　1 冊 580 円　A5 サイズ　50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760 円【580 円（+送料 180 円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬+特集号　計　3,600 円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25　Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシェル神父の講話 II

【出版社】 教友社
【著　者】小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）
品番/ISBN：9784907991807
発売/発行年月：2022 年 3 月
判型：A5
ページ数：184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)
1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。
39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハープに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハープによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシェル神父
1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。
1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。
1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。
2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。
2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介　　十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書　　翻訳刊行

『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話

〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス
訳者：九里 彰
判型：B6 判並製
ページ数：184 ページ
価格：本体 1,600 円+税
ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016
発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアーヌム教授。2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里　彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL:03-3322-7601　FAX:03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

サンパウロ

愛と英知の道

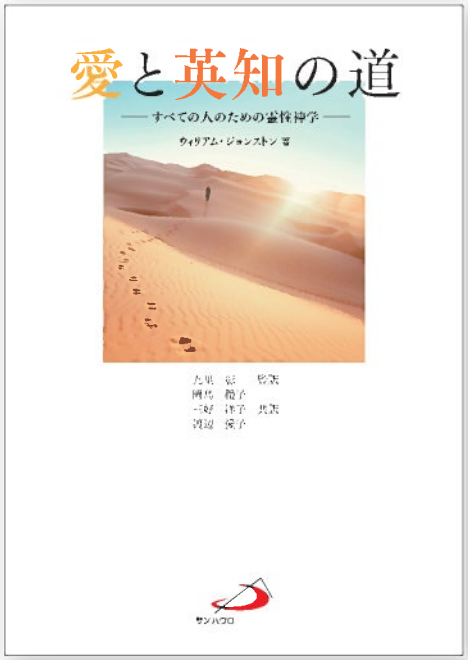
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5　C0195
定価**540**円（税込）
【聖母文庫】287

第2版 好評発売中！

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7　C0195　【聖母文庫】246
定価**540**円（税込）209頁

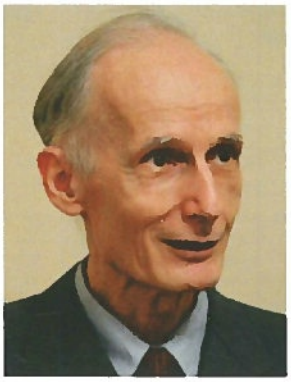
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8　C0195　【聖母文庫】268
定価**648**円（税込）281頁

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社　〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080　FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

朝日カルチャーセンターの

通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5 用紙）に、深読箇所で特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解読」（A４２枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解読」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

＊費用：6 ヶ月（20,360 円）。納入は 4 月、7 月、10 月、1 月。継続の場合 19,130 円。

＊講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

＊問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel:０３－３３４４－２５２７（直通）

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊
（２０２２年～）

・祭日のミサに参加するために
　　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時
【クリスマス】
　　１２月２４日(土)～２５日(日) 朝食 ≪講話なし、夕食なし≫

・聖書深読黙想会(土曜日１７時～日曜日１６時)　大瀬高司 神父
　９月　３日～　４日　　２０２３年
　１１月　５日～　６日　　２月２５日～２６日

・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日１０時～１６時・昼食付) カルメル会士
　９月２１日　１０月２６日　１１月１６日　１２月２１日
　２０２３年　１月１８日　２月１５日　３月１５日

・キリスト教霊性入門(木曜日１０時～１６時　昼食付)　松田浩一神父
　９月１日　１０月１３日　１１月３日　１２月８日
　２０２３年　１月１２日　２月２日　３月２日

・一泊黙想会　(土曜日１６時～日曜日１６時)　カルメル会士
　　２０２３年
　９月１７日～１８日　　１月１４日～１５日
　１１月１９日～２０日　　３月１８日～１９日

・奉献生活者のための黙想会　(初日１７時～最終日朝食)　カルメル会士
　１２月２７日(火)～２０２３年１月　５日(木)

・召命黙想会(男女)４０歳まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士
　　１１月１１日(金)～１３日(日)

・カルメル会召命黙想会(男子)４０歳まで（初日１６時～最終日１６時）
カルメル会士

２０２３年

１０月２９日(土)～３０日(日)　　２月　４日(土)～　５日(日)

・特別黙想会(初日２０時～最終日１６時)Sr.伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
１１月２５日(金)～２７日(日)

＊ 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。
＊ こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
＊ 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
E メール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

＊毎月第三水曜日（８月はお休み）

＊10 時～16 時　　3,500 円（昼食付）

＜2022 年度開催予定日（2022 年４月～2023 年３月）＞

2022 年	~~4 月 20 日~~	~~5 月 18 日~~	~~6 月 15 日~~	~~7 月 20 日~~
	9 月 21 日	10 月 26 日（＊第４週）	11 月 16 日	12 月 21 日
2023 年	1 月 18 日	2 月 15 日	3 月 15 日	

コロナの状況により中止となることもございます。
当面は少人数(定員 10 名)での開催とさせていただきます。

今泉　健神父

ジョニー神父

当修道院司祭が交代で指導いたします

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: ０３－５７０６－７３５５　Fax: ０３－３７０４－１７８９
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることをとおして教会に生涯を奉げる道があります。
聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思います。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2022年 ~~4月 2日（土）～3日（日）~~ 16時～翌日16時

~~7月 9日（日）～10（日）~~ 〃

10月29日（土）～30日（日） 〃

2023年 2月 4日（土）～5日（日） 〃

会費：￥5,000（3食付き）

＊お問合せ　お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL.03-5706-7355　　FAX.03-3704-1789

Eメール　mokusou@carmel-monastery.jp

宇治カルメル会　黙想会案内
(2022 年度～)

【一般のための黙想】　中川博道神父
１泊２日（土曜 午後５時～日曜午後４時）
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始
９/１７～１９(２泊)　１０/２９～３０
２０２３年
１/１４～１５　２/１８～１９

【聖書深読】（午前 10 時～午後 4 時）中川博道神父
１０/８　１１/１９
２０２３年
１/２１　２/１１

【水曜黙想会】（午前 10 時～午後 4 時）中川博道神父
９/２１　１０/２６　１１/２３

【祈りの学校】（木曜 午前 10 時～午後 4 時）松田浩一神父
９/１　１０/１３　１１/３　１２/８

【カルメルの霊性】（午後５時～午後４時）中川博道神父
幼きテレジア　１０/１(土)～２(日)
十字架の聖ヨハネ　１２/１７(土)～１８(日)

【奉献生活者の黙想】（午後５時～午前９時）一般可
９/５(月)～１４(水)　中川博道神父
１０/１３(木)～２２(土)　中川博道神父
１２/２７(火)～１/５(木)　中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】
＊＜クリスマス＞
１２/２４～２５
チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０
(講話なし 食事つき)

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-66-1191
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

新企画！

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。

すべて木曜日　10：00～16：00

~~5/19　6/2　7/7~~ 終了　9/1　10/13　11/3　12/8

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは,FAX、ハガキ、E-mail にてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39－12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax　**0774-66-1191**（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

諸所の企画案内

真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０２２年 ― 祈りの集いのご案内

イエス様のように祈る

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

１月１３日　「御旨を行う」(詩編４０：９)
２月１０日　「私が父の家にいるのは」（ルカ２：４９）
３月１０日　「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」（ルカ３：２１）
４月　７日＊　「イエスはひざまずいてこう祈られた。父よ、
　　御心なら、この杯を」（ルカ２２：４２）
５月１２日　「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」（マタイ１１：２５）
６月　９日　「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」
　　（ルカ６：１２）
７月１４日　「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します」
　　（ヨハネ１１：４１）
８月　　休み
９月　８日　「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ２３：４６）
１０月１３日　「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて」（ルカ２２：１９）
１１月１０日　「イエスは天を仰いで言われた。父よ・・・」（ヨハネ１７：１）
１２月　８日　「天におられる、私たちの父よ・・・」（マタイ６：９）

予約は前日の１６：００まで

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com
tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、

予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を

現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を

当会のHPに掲載いたしますので、

そちらをご覧いただければ幸いです。

担当　中山真里

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

http://sadhana.jp/　　申込み受付・・開始日の８日前まで

コース	日　時	指導	開催場所	申込み
仙台・福島 フォローアップ	9/22(木)9:00- 23(金・祝)18:00 *前泊、継続宿泊、通いも可	Frマルコ・アントニオ Fr植栗	ラ・サール会仙台修道院（仙台市宮城野区）	長尾　雅子 090-3647-4135 0az2.540787230a@ezweb.ne.jp
仙台・福島 サダナⅠ	9/24(土)9:00- 25(日)18:00	Fr植栗	同上	同上
入門Ａ	10/2(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会 リヒト宣教室 （市ヶ谷）	来間(くるま)　裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo.co.jp
浜松 サダナⅠ	10/8(日)7:30- 10(月・祝)16:00	Fr植栗	浜松三ケ日研修センター（浜松市北区）	同上
フォローアップ	10/16(日) 9:30～17:00	Fr植栗	シャルトル聖パウロ修道女会九段修道院（九段北）	同上
名古屋　リピーターの会Ａ	11/5(土) 9:30-17:00		聖霊会　八事修道院ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ)暁子 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
名古屋　リピーターの会Ｂ	11/6(日) 9:30-17:00		同上	同上
入門Ｂ	11/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会 リヒト宣教室(市ヶ谷)	来間(くるま)　裕美子※
広島サダナⅠ&ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	11/20(日)9:00- 23(水・祝)16:30 *通いも可	Fr植栗	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク 082-239-0034

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518（来間）までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子　Tel&Fax ： 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること

念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日
　　１４：００～１６：００(講話と念祷)
主催：慈しみ深き会

指導：九里（くのり） 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2022年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。
秋口からの再開を予定しております。
再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子
Tel:042-473-6287
e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：6 月申込の場合は、7 月号~12 月号（但し 8 月号は休刊）となり、
5 冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

インターネットから読める様になりました

毎月の『霊性センターニュース』を宇治カルメル会のホームページに掲載してます。
PC 版のみ　PDF 形式
宇治カルメル会修道院ホームページ
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/
「カルメル霊性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき　・・・つぶやき・・・

「霊性」の意味を探し続けて…

聖書が「肉」というとき、「自分の弱さやはかなさを自分の努力で埋め合わせるべき欠け」と見て、完璧を目指して生きる人を指します。逆に「霊」といえば、「自分の弱さやはかなさを神のあわれみに出会うための開き」と見て、神の憐みの霊によって生きる人のことです。

（雨宮慧『主日の聖書解説（C年）』120ページ）。

霊性的な分野から、主を追い求めて歩んできて、「霊性」について、あらためて、ハッとさせられる雨宮慧師の明快な説明です。

実に、「霊的な人」とか、「霊性の深い人」などという言葉が本来持っている意味があらわになってくるように思います。真に「イエスの弟子として生きる」とは、自分で自分の存在を支え、自分で自分を完成させようと葛藤して生きていくことではありません。むしろ、与えられた人間関係の、逃げ出したくなるような重さや、その中で味わい続ける自分の足りなさ、みじめさ、弱さ、ズレ・罪などの十字架を担い、「自分の命」、すなわち自分の価値観やプライドのような、捨てきれないものさえも捨て、あわれみの愛なるイエスに自らを開き、ゆだね、イエスとの交わりを生き続けることの中にこそ、イエスの弟子となっていく道があるのです。

「巻頭のことば」で引用した、フランシスコ教皇様の「聖性の狡猾な二つの敵」、「わたしたちの道を誤らせうる、聖性の二つの贋作」には、細心の注意が必要です。

主よ、教会を混乱させ、聖性に向けての歩みを止めさせるこれら新しいグノーシス主義やペラギウス主義から、教会を解き放ってください。こうした偏向は、個人の気質や性格によって、様々な形で現れます。ですから皆さんに勧めます。自身の生活にそうしたものが表れていないか、神のまえで自らに問い、 識別してください。（『喜びに喜べ』62）（cf. 『福音の喜び』「霊的な世俗性」（93））

教皇様の切実な促しの声が響き続けています。

（Fr. 中川博道 o. c. d.）

REGINA
DECOR
CARMELI